

## ドイツ・ハンブルク市等への出張報告

- 1 日程 令和8年5月31日（日）～6月7日（日）
- 2 訪問先 ドイツ連邦共和国（自由ハンザ都市ハンブルク市、ルール地方）
- 3 参加職員 副市長 小松 恵一  
環境局職員 2名

### 4 概要

環境・エネルギー分野の相互協力等を目的に覚書を締結しているドイツ・ハンブルク市を訪問し、本市が先行的に導入を進めているペロブスカイト太陽電池に係る技術紹介と、将来的な連携について意見交換等を行った。

併せて、ハンブルク市における先進的な水素事業等の取組や、周辺都市の旧施設を活用したまちづくりについて、関連施設を視察した。

### 5. 行程

#### 6月1日（月）

##### （1）HH-WIN（Hamburg Hydrogen Industry Network）視察

- ・グリーン水素を供給するための産業用パイプライン整備事業。
- ・2027年運用開始予定で、将来的に60km規模をめざしている。



#### 6月2日（火）

##### （1）アンドレアス地区（Andreas Quartier）の視察・訪問

- ・デュッセルドルフ市内の元裁判所を再開発した複合施設を訪問。デベロッパー会社のCEOによる説明と案内後、デュッセルドルフ市長も交えたランチミーティングに参加。



(2) ホテル・デ・メディチの視察・訪問

- ・デュッセルドルフ旧市街の中心に立地する旧修道院を再開発した 17 世紀の建物を見学。戦時中はナチスの警察施設。現在は高級ホテルとして利用しており観光とビジネス両方に需要がある。



(3) ツォンス (Zons) 視察・訪問

- ・ドイツ西部ドルマーゲン市にあるライン川沿いの町を視察。
- ・中世の城壁がそのまま残されており、町全体が文化遺産となっているため、個人宅であっても許可なしに工事ができない区域となっている。

6月3日 (水)

(1) ハンブルク港コンテナターミナル 視察【日独議連同行】

- ・ハンブルクのコンテナターミナルの中で最も新しいターミナル。
- ・中央監視棟には 15 人が常駐。敷地内のコンテナ運搬や船・電車・トラックへの積荷では、AI も活用した自動化・電化が進んでいる。

(2) 在ハンブルク日本総領事公邸 訪問【日独議連同行】

- ・在ハンブルク総領事主催の昼食会に参加。
- ・ハンブルクに駐在する日本企業、ハンブルク市の環境・エネルギー分野に係る担当者等を中心に招待されており、情報交換等を行った。



6月4日（木）

（１）ハンブルク環境大臣（副市長） 表敬【日独議連同行】

- ・神戸市とハンブルク市が締結している環境・エネルギー・医療等に関する覚書に基づく連携施策として、日本の技術であるペロブスカイト太陽電池のハンブルク市への実証導入の検討について神戸市から提案。
- ・ハンブルク市では2040年カーボンニュートラルを掲げており、屋根上への太陽電池設置を義務づけている。80%の屋根上太陽電池設置が目標。
- ・ハンブルクでも屋根上への耐荷重性等の課題があり、神戸市の提案について検討を進めていきたい意向を確認した。



（２）ハンブルク港クルーズセンター 視察【日独議連同行】

- ・2025年9月開設のフェリーターミナルを見学。ショッピングモールに併設されており、乗船・下船、手荷物処理、旅客サービスを行っている。
- ・船が停泊していないときはイベントスペースとしても活用している。
- ・停泊中のクルーズ船には陸電供給を実施。



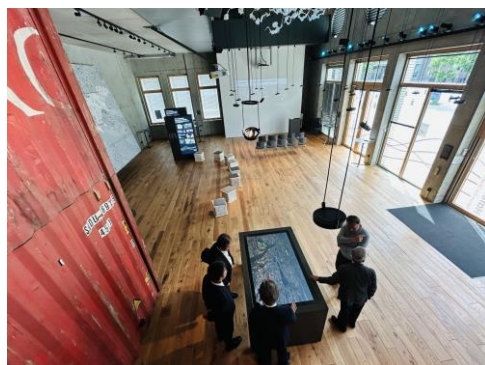
（３）ハンブルク議会副議長 訪問【日独議連同行】

- ・法律を専門としており、産業・企業との関係が強いハンブルク市副議長とランチミーティング

（４）ハーフェンシティツアー【日独議連同行】

- ・旧港湾・倉庫・工業地帯の約157haを、住宅やオフィス、文化施設等が混在する都市地区に開発した区域（ハーフェンシティ）を視察。

- ・インフラ整備など公的資金の多くは土地売却収入を活用している。ハーフェンシティは、住宅、学校、企業、観光産業など様々な機関が集積し、エリア全体が一つの村のように機能することを目指しており、雇用創出や税収増加につながっている。



## 6月5日（金）

### （1）ハンブルク経済大臣 表敬【日独議連同行】

- ・市庁舎にてハンブルク経済大臣（市長代理）を表敬。
- ・経済大臣からは、日本の太陽電池技術に興味があること、医療・ライフサイエンス分野ですでに日本企業との連携が進んでいるとの発言があった。



### （2）エルプフィルハーモニー 視察

- ・ハーフェンシティ再開発のシンボル事業である音楽文化施設「エルプフィルハーモニー」の館内視察ツアーに参加。
- ・既存のレンガ倉庫にコンサートホールを載せた建物で、現在は市のランドマークとして機能。無料開放している展望広場には年間 300 万人が来場する。

